

# 乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

第 19 週 平成30年5月7日 ~ 平成30年5月13日

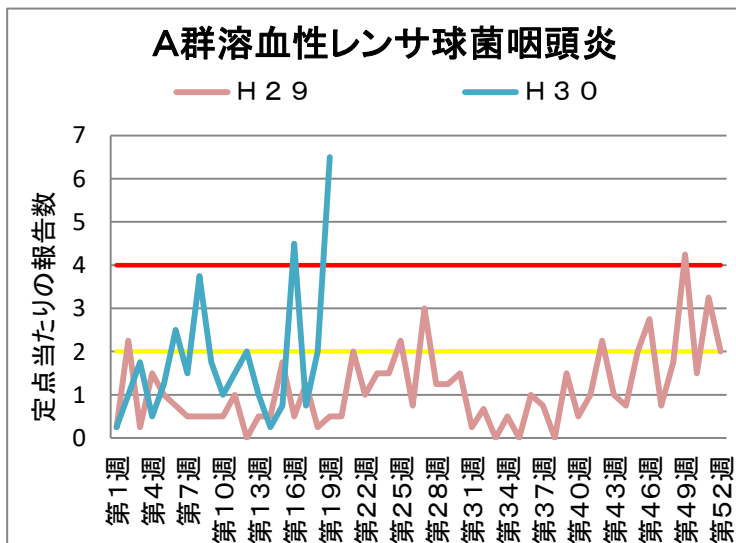
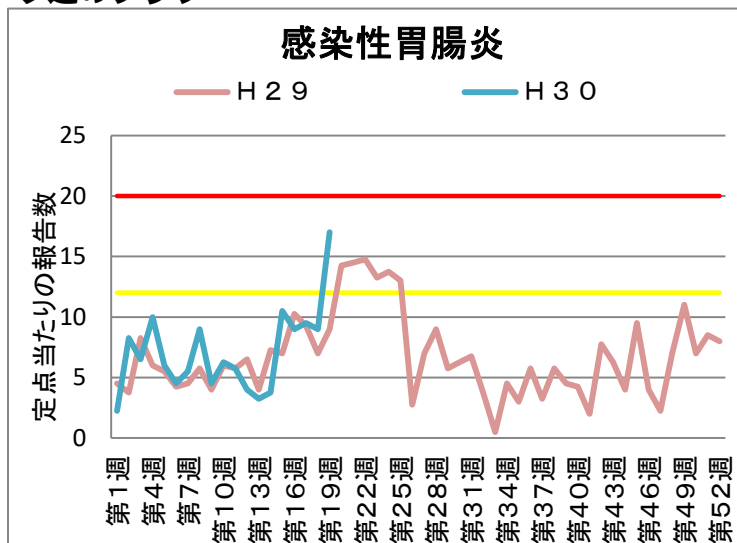
## 今週のコメント

○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(定点当たり6.50)、感染性胃腸炎(定点当たり17.00)、咽頭結膜熱(定点当たり1.25)の報告が増加しています。

○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感によって発症する小児に多い感染症です。かゆみを伴う赤い発疹が全身の皮膚にあらわれることもあります。治療には抗生物質が有効です。腎炎などの合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、抗生物質をのむことが大切です。予防には、手洗い、うがい、咳エチケットを心がけましょう。

○ 麻しん(はしか)対策として、改めて、麻しんに罹患すると重症化しやすい幼児、児童、体力の弱い方と接する機会の多い医療関係者、児童福祉施設等職員、学校等職員等の方々への予防接種が推奨されています。

## 今週のグラフ



\* — 流行警報基準値です      — 警報継続基準値です

## 今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	0.29	手足口病	-
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	-
咽頭結膜熱	1.25	突発性発しん	1.5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6.5	ヘルパンギーナ	0.25
感染性胃腸炎	17	流行性耳下腺炎	-
水痘	1.75		

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

\* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

## 参考資料等

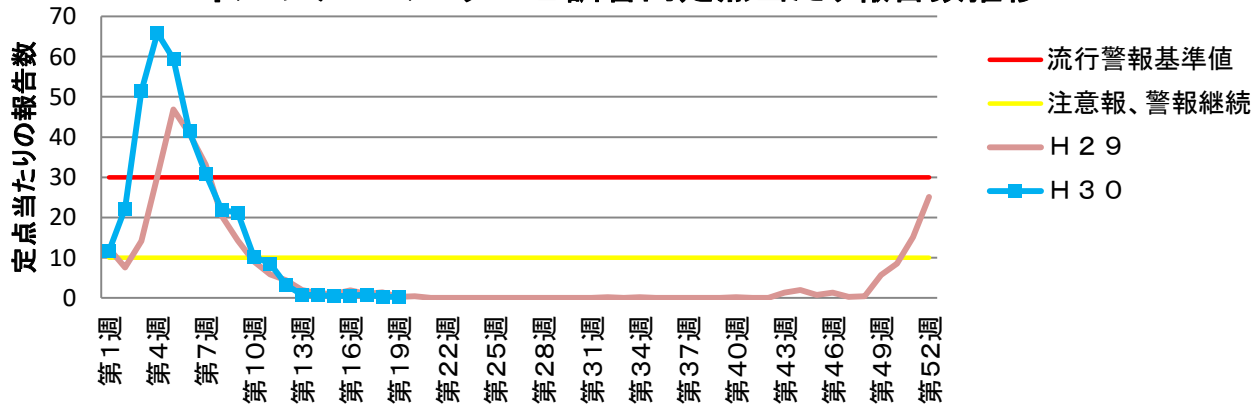
報告週対応表

警報・注意報基準値の説明

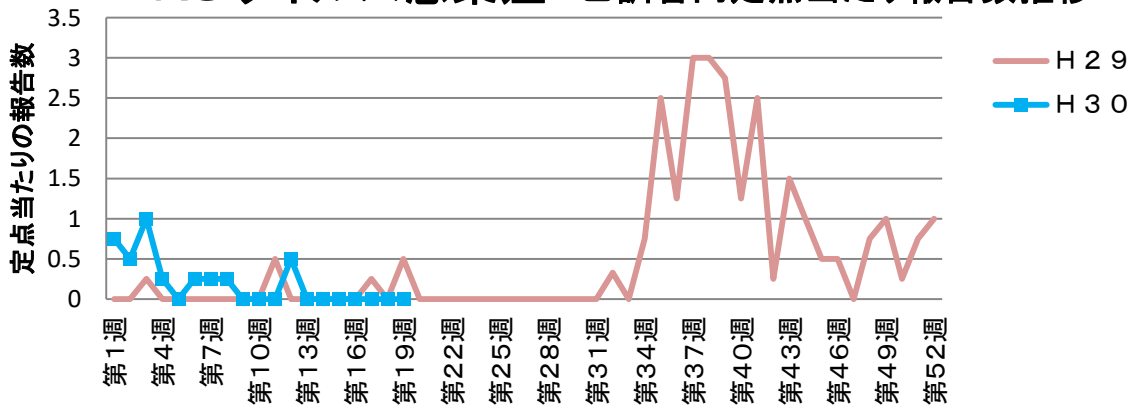
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

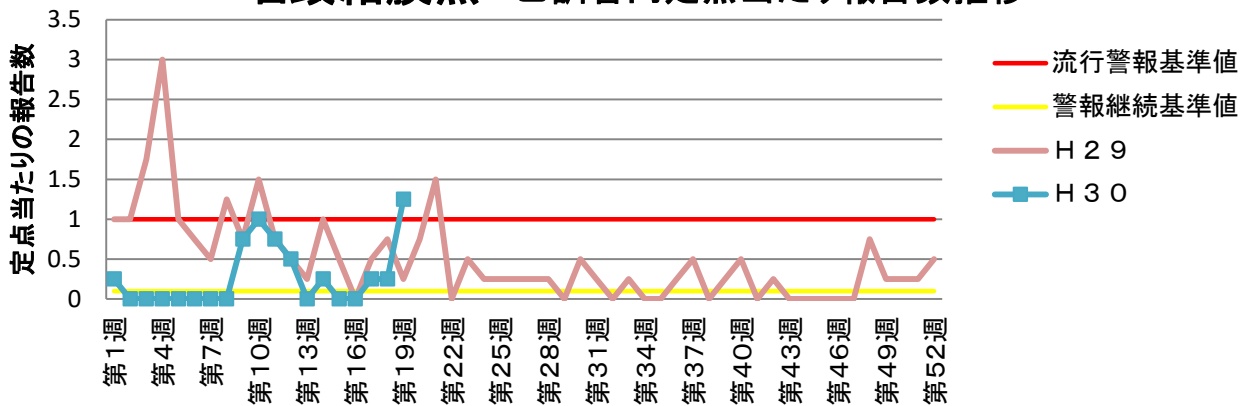
## インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



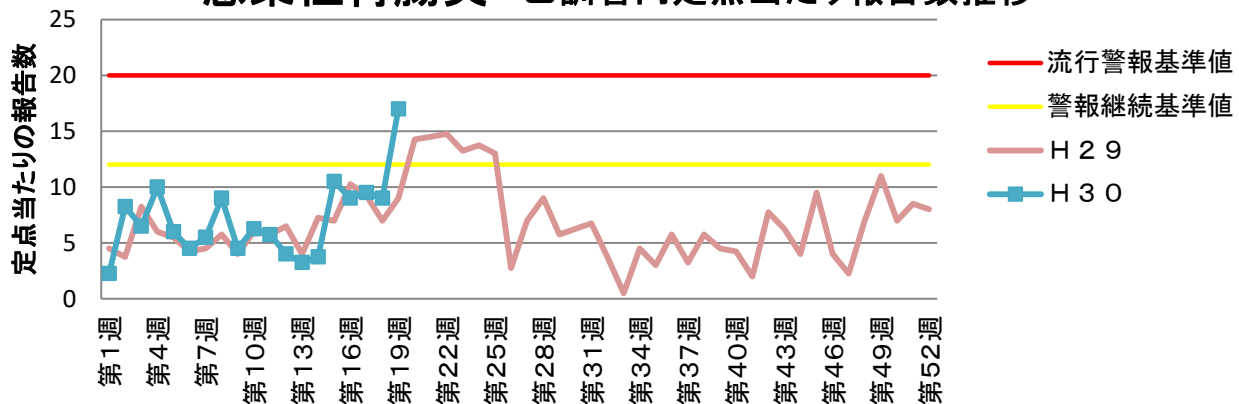
## RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



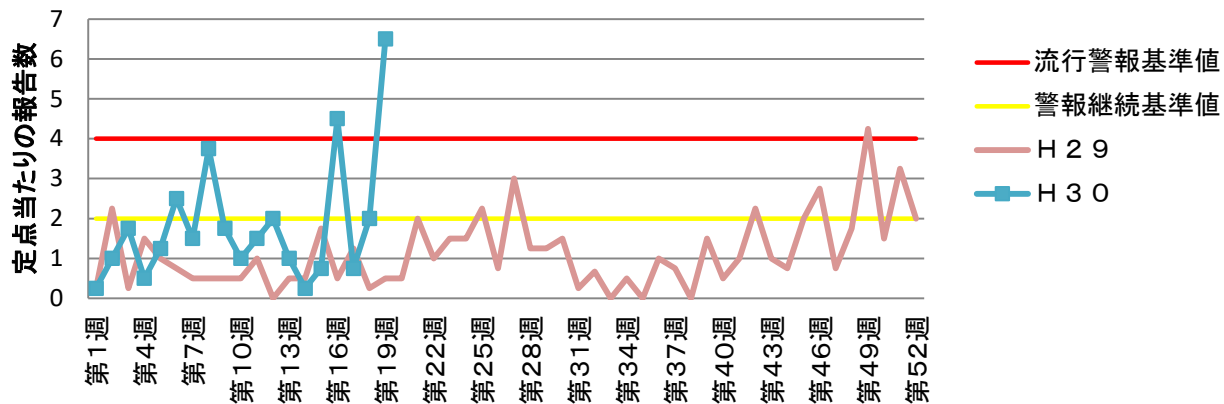
## 咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



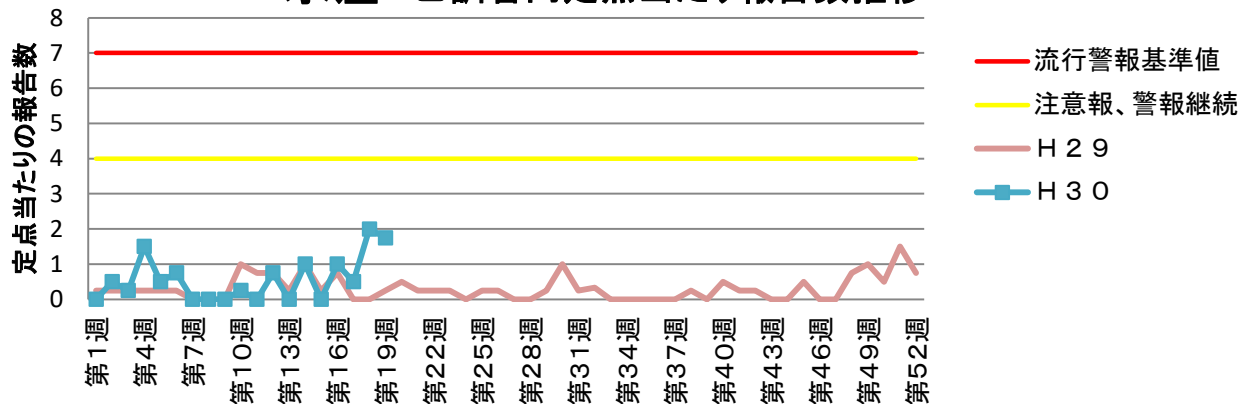
## 感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



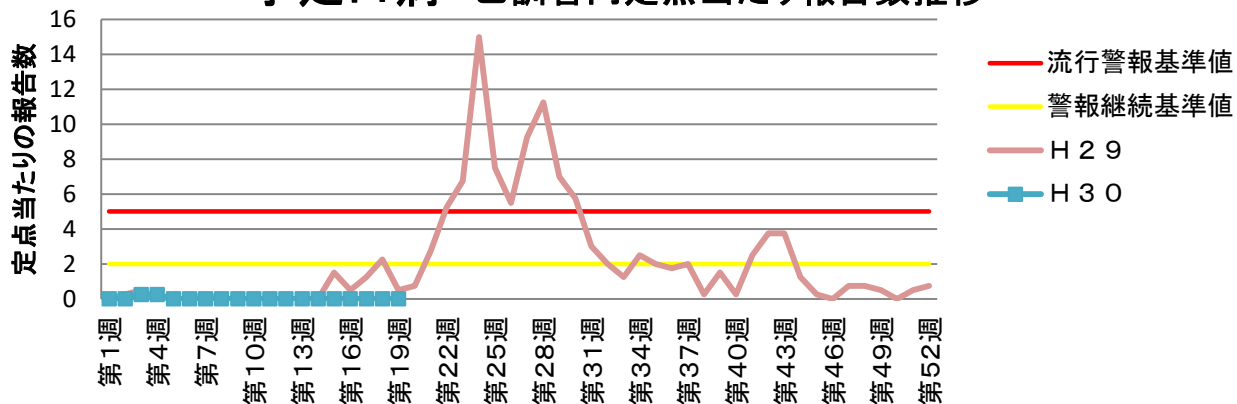
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



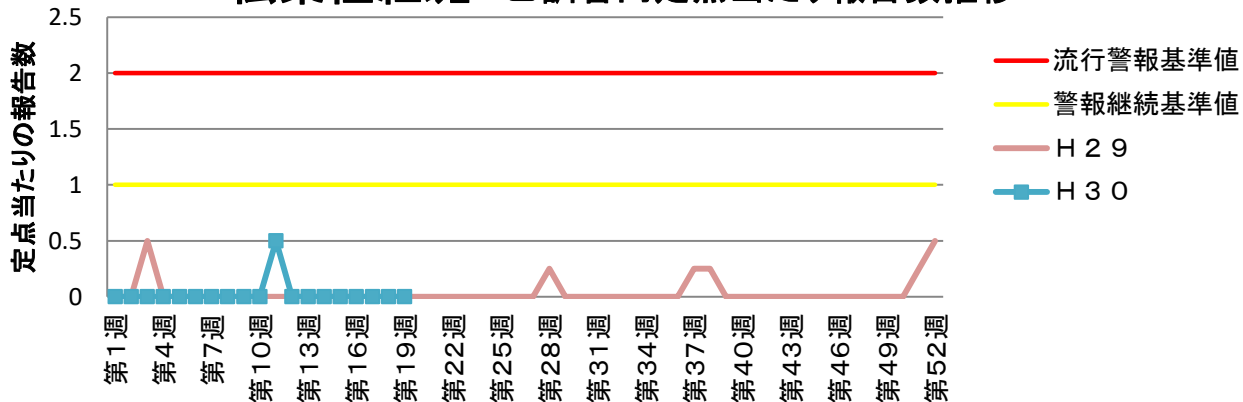
### 水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



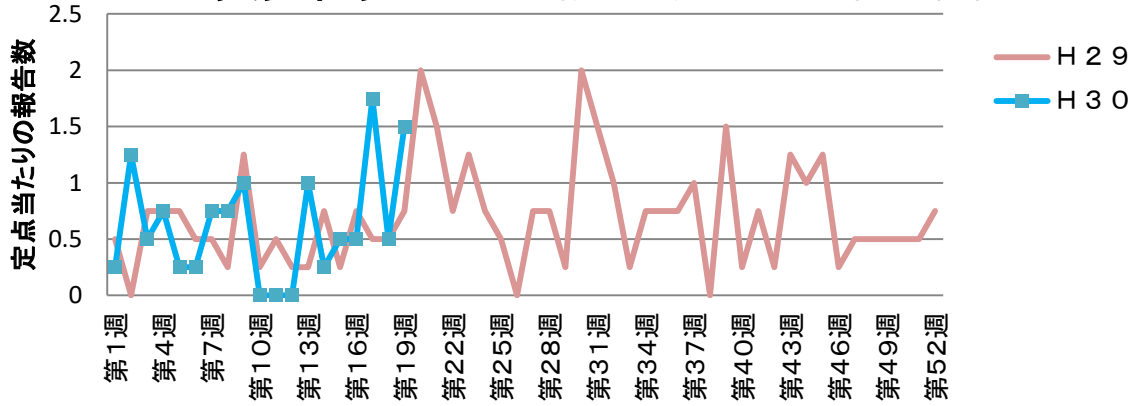
### 手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



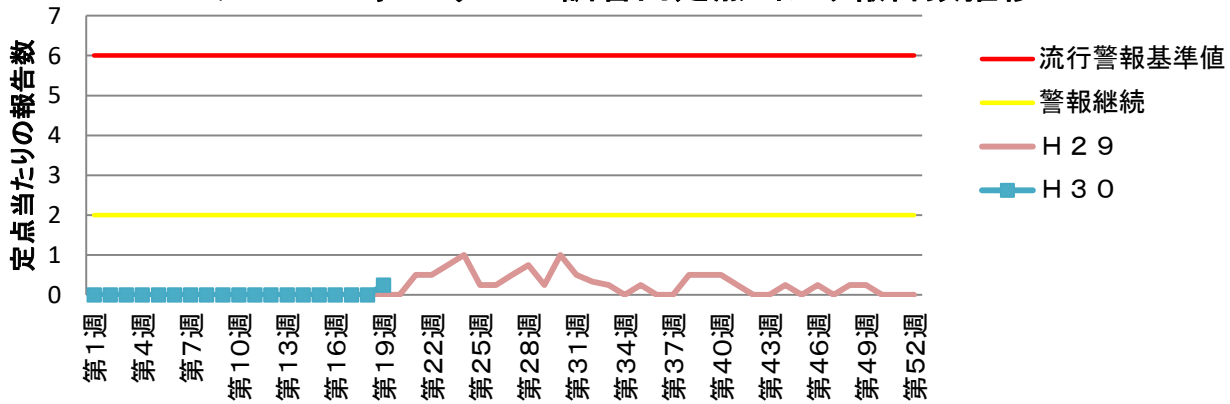
### 伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



### ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

